

Tour of The Alps Race Previwe

春のイタリアレース最終戦、Tour of The Alpsに参戦！



TOUR OF THE ALPS 2025

CABEDO FANCELLU GARIBBO ISHIBASHI

KOBAYASHI RACCANI ZERAY

JCL TEAM UKYO

21-25
APRIL

レース期間：4月21日～4月25日

距離：746.9 km

UCIカテゴリー：2.Pro

参加チーム：16チーム (WT 8、PT 5、CT 2、NT 1)

出走選手数：112人

JCL TEAM UKYOメンバー：アレッサンドロ・ファンチェル、マルク・カベド、石橋学、ニコロ・ガリッポ、小林海、シモーネ・ラッカーニ、ナホム・ゼライ

JCL TEAM UKYO監督：マヌエーレ・ボアロ

レース公式サイト：<https://www.tourofthealps.eu/it>

JCL TEAMUKYO公式サイト：<https://jcl-team-ukyo.jp/>

ジロ・ダブルツツォでのハードな 1 週間を経て、JCL TEAM UKYOはツアー・オブ・ジ・アルプスに臨みます。この大会は、ジロ・デ・イタリアの総合優勝候補たちが調整の場として選ぶ、格式高いステージレースです。

JCL TEAM UKYOは、招待を受けたわずか 2つのコンチネンタルチームのひとつ。これは、チームの取り組みと実力が大会主催者に認められた証です。

今回の出場メンバーには、日本チャンピオンの小林海と、昨年もこの大会を走った石橋学が含まれています。そして、アブルツツォで総合 8位のファンチェル、13位のラッカーニと好調の 2名に加え山岳に強いゼライ。コッピバルタリで山岳賞を獲得したカベド、ナショナルチームで出場した GPクラブリアで5位に入ったガリッポの7名で挑みます。



ツアー・オブ・ジ・アルプスは全 5ステージで、どれも非常に厳しい山岳ステージです。

第1ステージは、トレンティーノ州を走るサン・ロレンツォ・ドルシーノ発着の 148.5km。スタート後、アンダロヘ向かう穏やかな登りを経て、ワインディングな下り坂に入る。その後、ヴァル・ディ・ノンとヴァル・ディ・ソーレを経て高度を上げ、1日のメイン登坂であるキャンポ・カルロ・マーニョへ。900mを登るこの一定勾配の登りを越えると、マドンナ・ディ・カンピリオからピンツォーロまでワイドなヘアピンで下る。27kmの平坦基調のあとにパツォ・デル・ドゥローネの登りが登場。ラスト 9kmは不規則な登りで、残り 2kmでは勾配が7〜8%まで上がる。

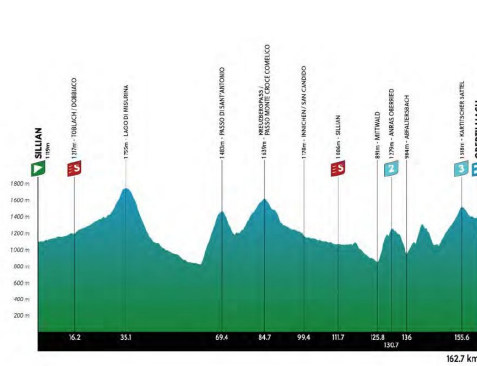
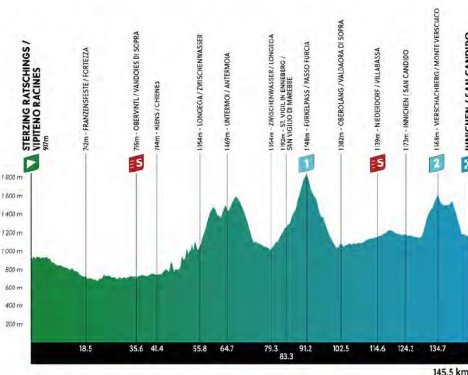
第2ステージは、メツォロンバルドからヴィピテーノ／ラッチネスまでの 178km。今大会のクイーンステージに位置づけられ、3,750mの獲得標高がある。モンテ・サン・ピエトロの KOMから、パンチーな登りと下りが連続し、後半には 16kmの周回を2周。各周にテレヴェス・ディ・ソプラへの登り(4km、平均7%、最大10%以上)がある。最後はテクニカルな下りで、ゴールまで 8km。ゴール直前は石畳で、フィニッシュ地点の中心街では左カーブを抜けたスプリント勝負になる。



第3ステージは、145.5kmの南チロルルートで、スタートから 55kmは完全な平坦。その後、初登場のウンテルモイ／アンテルモイアの登りでレースが動き出す。下りの後には、フルケル峠（ Passo Furcia）が控えており、特に最後の 4kmは2桁勾配の連続。さらにサン・カンディドで 21kmの周回コースへ。モンテ・ヴェルシャコの 5km登りから、11km先のゴールを目指し、テクニカルな下りで決着を迎える。最後の 1.5kmは石畳を含む旧市街のワインディングな道。

第4ステージは、オーストリア・チロル州シリアンからスタートし、国境を越えてイタリアに戻る 162.7km。ミズリーナ湖への登りから始まり、サント・アントニオ峠とモンテ・クローチェ・コメリコ峠を越えてサン・カンディドへ。再びチロルに戻り、アンラス・オーベリード、テッセンベルク、カルティッシャー峠の 3つの登りが連続。カルティッシャーの中盤には特に厳しい勾配があり、山頂からは 7kmの下りでゴールのオーバーティリアッハへ。最後の 3kmは緩やかに登る。

最終第5ステージは、リエンツ発着の 112.2kmのショートステージ。37kmの平坦のあと、15のヘアピンを含む**バンベルク登坂（4.5km/平均10%）が出現。さらに2度目のバンベルク、そして決定的なストロナッハの登り（3km/平均13%）**へ。登坂後は10kmのダウンヒル＋平坦でフィニッシュのリエンツ中心部へ。最後の300mは右→左の急コーナー。



ニコロ・ガリッポ

「このレースは自分にとって大切です。スタートリストのレベルがとても高く、ジロ・デ・イタリア出場予定の選手が多い。自分でもどうなるか分かりませんが、ベストを尽くして挑みます。私たちはコンチネンタルチームですが、シーズン最初からそうしてきたように、このレースでも存在感を示したいです。個人的にも体調はいいです。今年の悪運が終わっていただけることを願います。」

石橋 学

「とても厳しいレースです。雨が多く、寒さもあります。それでも、全力を尽くしてレースに関わっていきたい。チームメイトのためにできる限りのサポートをして、好成績につなげたいと思っています。脚の調子は良いです。」

歴代優勝者

2024 LÓPEZ Juan Pedro
2023 GEOGHEGAN HART Tao
2022 BARDET Romain
2021 YATES Simon
2019 SIVAKOV Pavel

JCL TEAM UKYO ならびにこのレポートに関するお問い合わせ: KATAYAMA PLANNING 株式会社
田村 遼 (広報) Mail: tamura@kplanning.co.jp TEL: 090-44551-4021
増田 深雪 (広報) Mail: m-masuda@k-planning.co.jp